

JET からの手紙

世界をぐっと近くに ～JET プログラムがつなぐ世界～

長野県小川村教育委員会 外国語指導助手
Sarah Warso (サラ・ワルソ)

世間は広いようで狭い

私の学校では、他の多くの学校と同様に、この長野の山々を後にしていった何世代もの ALT (外国語指導助手) の足跡が見られます。彼らの名前は卒業アルバムや引き出しにしまわれたマニュアル、廊下に飾られている写真、そして村民の記憶にも刻まれており、一度も会ったことがなくても、私は彼らとつながっていると感じます。このような継続性は JET プログラム (語学指導を行う外国青年招致事業) の特長だと思います。単なる仕事だけではなく、場所や時代、文化を超えて人々をつなぐ、生きているネットワークなのです。

JET プログラムの目的は文化交流ですが、ここに長くいるほど、「交流」というのは自分の文化を日本人に伝えることや周りの人々から日本のことを学ぶことだけではないと気づかされます。「交流」というのは、あらゆる方向に広がるつながり、誰かが去った後も長く続く絆を作ることです。JET プログラムは日本での共通の経験を通じて、さまざまな背景を持つ人々を結びつけるグローバルなネットワークを生み出します。社会学者は「スモールワールド理論」でこの現象を説明しています。この理論によれば、世界中のどんな 2 人でも、知人を 6 人たどれば必ずつながるとされています。JET プログラムに関わる人々の実例を見ると、6 人ですら多すぎると感じられます。

運命の赤い糸

この現象の例の 1 つは、最近結婚した友達のシャーロットとメンキンです。彼らの結婚式は、JET プログラ

ム参加者として出会った長野県で開催されました。しかし、お祝いに集まった人々は世界各国から来ました。海を越えてイギリスから祝いに来たシャーロットの家族や、メンキンの家族にも会いました。アメリカ人の父とマレーシア人の母を持ち、さらに多様な文化が織りなされました。その結婚式には、JET の時の同僚や任期を終えた元 ALT、そして 2 人の国際的な友人など、多くの人々が集まりました。私にとって最も印象的だったのは、これが JET のコミュニティにとって、自然なことだと感じたことでした。国際結婚、海を越える友情、文化の交流は珍しくありません。世界中から集められた人々がコミュニティを築く結果なのです。あの結婚式で改めて気づかされたのは、JET プログラムは日本の一国を結ぶ懸け橋だけではなく、多くの文化が交わる「交差点」のような存在だということです。



メンキン (左) とシャーロット (右)

歴史を感じた瞬間

このグローバルなつながりを実感したもう 1 つの例は、1999 年に JET プログラムに参加した元 ALT が私の村を訪ねたときでした。ティファニー先生は中学生の子ど

もを連れてきましたが、まさに彼女がかつてここで教えていた子どもたちと同齢でした。あの頃の写真も持ってきて、今の生徒たちに見せたところ、大きな感動がありました。多くの生徒たちが写真の中で自分の家族を見つけました。この元 ALT は過去からの訪問者ではなく、地域の歴史の一部であり、私が着任するずっと前からこのコミュニティに貢献した人物でした。そして今、数年後に彼女は自分の家族を連れて戻り、その歴史にまた新たな層を加えました。生徒たちが写真の中で自分の親戚を指さす姿を見て、この仕事における些細な交流が、どれほど多くの見えないつながりを生み出すのかを考えました。彼女にとってはかつて教えた子どもたちの写真でしたが、現在の生徒たちにとっては家族の物語の一部でした。そして私は、JET 参加者が想像以上に深く配属先のコミュニティに溶け込む存在となっていることを改めて思い知りました。



元小川村 ALT のティファニーさんとその子どもたち

長野から世界へ

このネットワークは日本の国境で終わるわけではありません。JET を通じて築いた最も意外なつながりの1つが友人のグラです。彼女は AJET 長野支部に関わっており、私が入会したきっかけです。彼女は真の世界トラベラーです。JET 終了後は北マケドニアやカリフォルニアで働き、現在は南極で活動しています。彼女の南極での生活についての投稿を見ると、私は長野の田舎で出会った人が、今、氷原とペンギン、そして 24 時間続く白昼の中で生きているのだと考え、不思議な感覚になります。彼女はどこにいても絆を築き、コミュニティを形成します。私もいつか彼女のようなネットワークを築きたいと思っており、それは現在 JET コミュニティーで築いているつながりによって実現できると考えています。

交流の色々な形

JET プログラムは一時的なものと考えられがちですが、参加者は任期が終了した後も JET の経験を次の段階へ持っていき、古いつながりを保ちつつ、新しい絆を築きます。これらの人々の話を聞くと、JET プログラムの本当の目的が分かります。文化交流はただの言葉だけではなく、学校の廊下や職員室の会話の中、結婚式や古いアルバムの中、そして時差を越えたグループチャットの中で息づく現実なのです。



長野県 JET の集い

私はこれまでの長野県の JET 参加者、そして今後の JET 参加者が作る長野の物語のほんの一部です。長野だけでも、私は予想を超える国々、背景、人生の歩みを持つ人々と出会ってきました。

世界が途方もなく大きく感じられることがあります。でも、こうしたつながりの中で、世界は思っているよりずっと小さく、そして深く結びついているのだと気づかされます。JET プログラムは日本を見せてくれるだけではありません。世界を、そしてお互いを、別れを告げた後も、長く心に残る形で見せてくれるのです。

プロフィール



Sarah "Sid" Warso

サラ「シッド」ワルソ

アメリカのネヴァダ州出身。JET に参加する前、ラスベガス大学で教師を務めながら修士号を取得し、2021 年から長野県小川村の ALT を務める。AJET 長野支部でも活動しており、支部長のほか、さまざまな委員会役職を経験してきた。コミュニティやつながりを築くことが好きで、よく研修の企画をしたり、交流イベントに参加したりしている。